

男女のおひとりさま不安

～中高年無配偶者の生活リスク意識分析から～



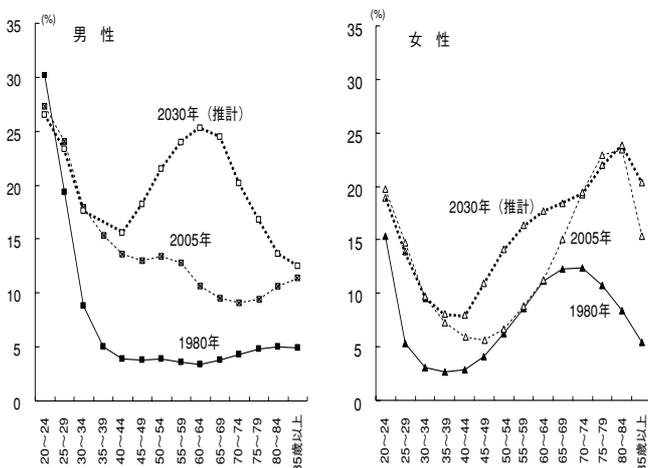
生活研究部門 栗林 敦子

akuri@nli-research.co.jp

1—注目される「おひとりさま」

2007年に東京大学教授の上野千鶴子氏が著した「おひとりさまの老後」(法研)がベストセラーになり、「おひとりさまの『法律』」(中澤まゆみ著、法研)、「おひとりさまマガジン」(文藝春秋)など、女性が自立して「1人で生きる」ための指南書が多数出版されている。2008年11月にはマガジンハウスの「an・an」まで「おひとりさままで生きていくつもり？」という特集を組み、女性にとって「おひとりさま」は老若問わず注目される 이슈となっている。

【図表-1】性・年代別単独世帯の割合(対人口)



(注) 数値は、当該年齢階層の単独世帯数/人口
 (資料) 「日本の世帯数の将来推計」(2008、国立社会保障・人口問題研究所)、国勢調査より筆者作成

しかし、2008年に発表された「日本の世帯数の将来推計」(国立社会保障・人口問題研究所)では、2030年に50代、60代の男性も、ほぼ4人に1人が単身者になると推計されており、「おひとりさま」は男女を問わない 이슈となったといえよう(図表-1)。

2—女性は今から「おひとりさま」リスクを実感

「おひとりさま」は、自らの家族を形成する以前の未婚層と、結婚後、配偶者と離別・死別し再婚していない家族が解体した層の2つの層からなる。これらの「おひとりさま」の要因について、人々はどの程度「起きうる」と考え、どの程度「深刻である」と考えているのだろうか。家族の形成に係わる問題を「結婚できない」「子どもを持ってない」の2点、家族の解体に関する問題を「配偶者と死別」「夫婦関係悪化」の2点でみてみよう(図表-2)。

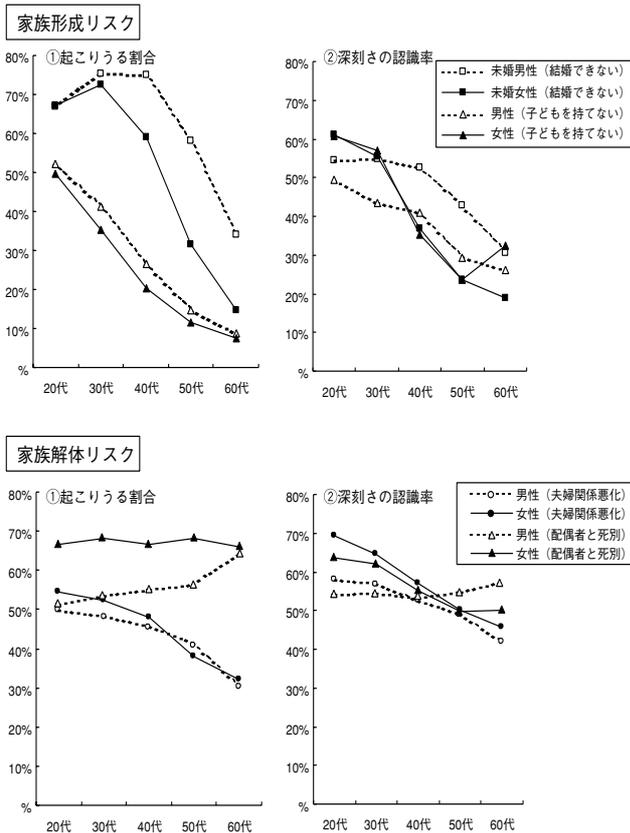
家族の形成に関する問題は、家族形成前の若年層が起これうと考え、深刻に思う傾向がある。「結婚できない」については、30代以上の男性は女性より起これうと思う傾向があり、深刻さも大きいことが特徴となっている。

一方、家族の解体に関する問題については、「配偶者と死別すること」を起これうと考え深刻に思っている割合が男女ともに高い。しかし、リスクとしての認識には男女で差があり、女性は全年代で7割の人が配偶者との死別を想定し深刻さは年齢とともに減少するが、男性は年齢とともに想定する割合が高まり深刻さも増す。

女性は若いうちから様々なライフコースの選択に直面し「いずれは一人で生きていかなければならない」というリスクも視野に入れて生活しているのに対し、男性は女性よりも「おひとりさま」のリスクとしての認識が遅いといえよ

う。このままでいくと、気がついたら「おひとりさま」だったという中高年男性が多数出現するのではないだろうか。

[図表-2] 「おひとりさま」の要因についてのリスク認識 (全回答者)



(注1) 起こりうる割合：「既に起きている・きっと起きる」もしくは「起きるかもしれない」と回答した割合
 (注2) 深刻さの認識率：それぞれの問題で「起こりうる」とした層が「深刻である」もしくは「やや深刻である」と回答した割合
 (資料) ニッセイ基礎研究所「生活リスク総合調査」(全国の成人男女個人対象、有効回収数25278、2007年実施)より筆者作成

3—男女で異なる中高年「おひとりさま」不安

つぎに、40代から60代の中高年に限定して、老後の心、介護、家計に関する問題—「友人がいなくなり孤独になる」「頼れる人がいなくなる」「必要な介護サービスを受けられない」「十分な老後生活資金が確保できない」について、性別、配偶者の有無別に、「既に起きている・きっと起きる」と回答した割合を比較してみよう。

これらのどの問題についても、無配偶者は有

配偶者よりも起こりうると思う傾向が読み取れるが、有配偶・無配偶者間の違いが顕著なのは、女性の「十分な老後生活費が確保できない」、男性の「頼れる人がいなくなる」、「友人がいなくなり孤独になる」である。

老後生活費の確保は、経済力の乏しい女性無配偶層にとって大きな問題であるが、60代になると男性無配偶者と差がなくなる。「頼れる人がいなくなる」は、女性無配偶者では60代で大きく減少するが、男性無配偶者はむしろ増加する。

調査結果からは、同じおひとりさまでも、女性は男性に比べ、高齢になるほど不安が減っていく様子が見えてきた。それは、若い頃から「おひとりさま」リスクを描きつつ生きてきた、女性の、現実を柔軟に受けとめる環境適応能力によるものと考えられる。また、冒頭に示した「おひとりさまの老後」に高齢シングル女性に向けた多様なエールが含まれているように、女性単身層が生きていくための情報もマスコミ、クチコミを通じて豊富に存在することもその一因といえよう。

4—求められる男性「おひとりさま」向け施策

おひとりさまリスクを認識する中高年男性が増加し、統計的にも単身男性のボリュームが無視できなくなった今、今後は女性だけでなく男性のおひとりさま生活にも対応しうる様々な施策が期待される。

[図表-3] 中高年の老後不安

	男性			女性			
	40代	50代	60代	40代	50代	60代	
友人がいなくなり孤独になる	有配偶者	5.3%	5.8%	6.4%	5.5%	4.7%	4.4%
	無配偶者	14.9%	11.2%	13.1%	11.5%	11.0%	8.7%
頼れる人がいなくなる	有配偶者	6.3%	6.6%	7.1%	7.3%	5.8%	5.7%
	無配偶者	16.8%	14.5%	17.6%	19.4%	17.8%	10.8%
必要な介護サービスを受けられない	有配偶者	2.6%	3.4%	2.9%	3.0%	2.6%	3.2%
	無配偶者	6.7%	5.7%	4.6%	6.6%	6.1%	4.5%
十分な老後生活資金が確保できない	有配偶者	17.7%	19.7%	15.4%	19.0%	18.8%	13.8%
	無配偶者	21.4%	22.7%	20.9%	32.1%	29.6%	23.1%

(資料) 図表-2と同じ